

論壇

「連泊トリピート」に課題

新型コロナウイルスの影響で大きな影響を受けた業種の一つがホテルや旅館などの宿泊施設である。ロックダウンと海外旅行の停止の影響で、前年比10%というような悲惨な状況が続いていた。関係者のお話を聞いても、次々にキャンセルがきて、パンニック状態になったという。静岡県も含めて、地域経済にとって観光業は重要な産業である。

こうした厳しい動きの中で業界のリーダーはどう考えているのだろうか。そんな興味を持っていたところ、たまたま星野リゾート代

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

表の星野佳路氏の出演した番組に同席することがあった。非常に印象的なお話をされていた。そのポイント、マイクロツーリズムあるいはローカル観光の重要性ということだ。ローカル観光とは、車で1時間から2時間の距離にある場所に出かける観光のことだ。

近場でのくつろぐ場所として、全国の多くの温泉場などが栄えた。そう考えれば遠くから多くの客を集める前に、まず地元の人を楽しんでもらうという観光の原点に戻って考える価値がありそう。

ちなみに、コロナ前の時期に、日本の観光ビジネスの大きな課題は、連泊トリピートを増やすことであると言われていた。海外から低料金で一見の客を大量に集めるのではなく、顔の見える馴染みの客に連泊してゆくりしてもらい、そして四季折々に何度も来てもらう。こうしたゆったりとした観光を広げることが必要である。そうした議論が盛り上がっていた。

観光ではない。日常の生活から数日離れて、温泉や自然に囲まれてゆったりとするのも観光である。温泉や自然に囲まれるのであれば、知らないところへ出かけていくよりも、馴染みのあるところの方がよい。近くにあれば、移動も面倒ではない。

ローカル観光への回帰

ある。海外旅行や北海道や沖縄への長距離旅行ではなく、ごく近場に出かける旅行のことをいう。この重要性を見直す必要があるというのだ。

019年の日本の旅行市場は約28兆円で、その中で国内市場が約22兆円、インバウンドと日本から海外への旅行(の中で日本に落ちる部分)は6兆円にすぎない。インバウンドはしばらく期待できないとしても、国内旅行、とりわけ近場から人が来るローカル観光がとりあえず非常に重要になる

皮肉なことに、コロナ危機は、日本の観光業の弱点を突いてきた。これを機会にローカルな観光を見直してみる価値がある。遠くに行つて珍しいものを見るだけが

ちなみに、環境省は国立公園で仕事と休暇を両立させる「ワーケーション」を実現できるような環境整備をすると発表している。国立公園もそうした場に変化していくということだろう。テレワークが広がる中で、家とオフィス以外のこうした第三の場所の活用が広がれば、観光地の宿泊施設利用の仕方も変わるかもしれない。

考えてみれば、新幹線や飛行機が便利に利用できる前から観光はあったわけだし、その基本はマイクロツーリズムであった。

光がとりあえず非常に重要になる

皮肉なことに、コロナ危機は、日本の観光業の弱点を突いてきた。これを機会にローカルな観光を見直してみる価値がある。遠くに行つて珍しいものを見るだけが

ちなみに、環境省は国立公園で仕事と休暇を両立させる「ワーケーション」を実現できるような環境整備をすると発表している。国立公園もそうした場に変化していくということだろう。テレワークが広がる中で、家とオフィス以外のこうした第三の場所の活用が広がれば、観光地の宿泊施設利用の仕方も変わるかもしれない。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。